

ばんけい

教育ほつとにゅーす

かわら版

こ みち
教育の小径

No.185

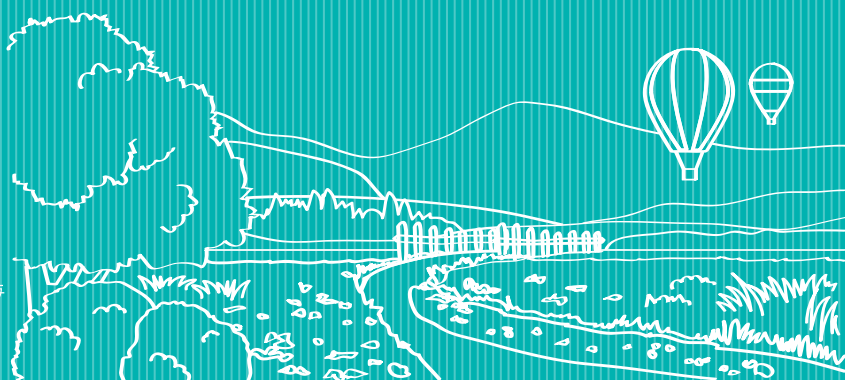
2024 March

3月号



(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生



今月のことば

竹馬の友

幼いころからの友だちのことです。幼児のころ、一緒に竹馬に乗って遊んだことから、「竹馬」には転じて「幼いとき」「なじみ」という意味が含まれています。

進級・進学する子どもに贈る言葉

- 3月は1年間の締めくくりの時期です。子どもたちの努力と頑張りを称賛し、これまでの学校生活に対して充実感や満足感を味わわせます。
- 4月からの進級や中学校への進学に向けて、いたずらに不安を煽ることなく、夢と期待をもたせるようにします。

1年間の充実感を味わわせる

3月は1年を締めくくる月です。各教科においては、1年間の学習をまとめる重要な時期です。教科書や学習ファイル、ノートなどを見返し、昨年4月からの学習を振り返らせます。

学習を振り返るとは、単に学習してきたことを思い出すだけではありません。できなかったことができるようになったこと、わからなかったことがわかるようになったことなどがたくさんあることを確認させます。このことによって、自らの努力の跡と成長の証しを確かめることができます。

各教科の学習で楽しかったこと、難しかったこと、苦労したことなどを思い出し、努力や頑張りの成果を確認させながら、これまでの学校生活に対して充実感や満足感を味わわせるようにします。ここでは、「よく頑張ってきたね」「ずいぶん成長したよ」のひと言が重要な意味をもちます。

子どもたちは特に修学旅行や移動教室、運動会などの学校行事に、楽しい思い出がたくさんあります。当時の写真などを見ながら、記憶をよみがえらせ、当時のことをみんなで話し合うのもよいでしょう。

6年生には6年間を振り返らせ、小

学校で学んできたことの意義や成果などを確認させます。「卒業アルバム」がすでに作成されている場合には、教材として活用することができます。

子どもたちは学習や成長の過程で、家族や大勢の先生方などさまざまな人たちの指導や世話や影響を受けてきました。それらの人たちに感謝の気持ちをもつように指導します。

次への夢と期待をもたせたい

4月からは一つ学年が上がります。6年生は中学校に進学します。

子どもによっては親しくなった友だちと別れることに寂しさを感じたり、中学校という未知の環境に不安をいだいたりします。次のステップでも引き続き楽しい学校生活を送れるように、次への新たな夢と期待をもたせたい。これまでと違った新たな世界が待っていることを伝えます。

「これからは勉強が難しくなるよ」「高学年になると重い責任が伴うよ」「中学校での生活は何事も厳しいぞ」などと、脅しや不安を煽るような言葉かけは禁物です。これらの言葉に教育的な効果は期待できません。

年度末になると、6年生が中学校の教師や生徒から中学校での学習や生活の様子を聞く場を設けている学校もあ

ります。子どもたちが事前に中学校を訪問し、授業を参観したり交流したりしている学校もあります。いずれも子どもの不安を取り除き、4月からの新しい学校生活への期待を深め、スムーズな移行を図る効果があります。

個別に話し合う場を設けたい

子どもたちに伝えたいことには、全体の場で話せる内容と、一人一人に応じて話す内容があります。前者は、学級活動などの時間に実施することができます。

一方、後者の場合は、プライベートなことが多いですから、個別に時間をとって面談するとよいでしょう。年度末における子どもとの個人面談はあまり実施されていませんが、一人一人に応じてこれまでの頑張りを振り返り、これからの目標や課題などを伝える重要な機会にすることができます。一人一人の状況に応じて励ましの言葉を贈るようにします。

年度末の保護者会ではこれまでの協力にお礼と感謝の言葉を述べます。学級通信などで伝えることもできます。

子どもたちと教師との出会いは、まさに「一期一会」です。「これまでの出会いを大切に、これからの出会いを楽しみに」したいものです。

3月 今月の記念日

1日 豚の日

1972年(昭和47年)、豚への感謝を込めて、アメリカで家族で祝う日として始まりました。この日には豚を祝う行事が行われます。

子どもの人間関係の把握

学級経営を進めるうえで、子どもたちの人間関係を把握することは教師の重要な仕事です。それは日ごろから子どもたちの言動をつぶさに観察しながら把握することもできますが、子どもの「証言」から捉える方法もあります。

それは「ソシオメトリー」という手法で、集団のなかの人間関係を数量的に測定するものです。アメリカの心理学者であるモレノによって開発されました。成員の人間関係や個々の集団における地位などを把握することを目的にしたものです。

学級集団を対象に、例えば「学校で誰と一緒に遊んだり勉強したりしたいですか」、あるいは「誰とは一緒にしたくないですか」と個別に聞き、数名ずつ名前を書かせます。これにより、学級集団における人間関係の実態や個々の子どもが周囲からどのように受けとめられているかがわかります。

識者によると、一般に多くの子どもから「一緒にやりたい」と名指しされる子どもは人気があり、社会性に優れている傾向があるといえます。逆に、「一緒になりたくない」と指名される子どもは、自己中心的で攻撃的であるため無視されやすく、友だち関係が希薄であることが多いとされています。

こうした子どもたちの人間関係を把握する方法はかつて多くの学校で実施されました。

つねに子どもの人間関係に注目し、すべての子どもが居心地よく、最適な状態で生活できるよう目配りすることが大切です。疎外されがちな子ども、孤立しがちな子ども、自己中心的な子どもなど課題性のある子どもには特に温かい心配りと言葉かけが必要です。

教育の動向

小学校の教科担任制

小学校高学年において教科担任制が導入されています。これには次のような効果が期待されています。

まず、教科指導の専門性をもった教師がきめ細かな指導を展開することによって授業の質を向上させ、子どもたちの学習内容の理解度や定着度をさらに高めることができます。

また、中学校で指導した教師が小学校で指導することにより、中学校教育への円滑な接続を図ることができることです。「中1ギャップ」の解消につながります。さらに、教師の持ちコマ数が軽減でき、これによって、教材研究

の時間を生み出したり、教師の負担軽減を図ったりすることができます。学校の働き方改革にもなります。

文部科学省は実施教科として、外国語科、理科、算数科、体育科をあげています。外国語科はコミュニケーション能力の基礎を培ううえで、算数科は興味をもたせながら系統的な指導を行うために、理科は中学校での科学的なリテラシーの育成を見据えた系統的な指導を行うために、体育科は中学校の内容を見据えた指導を行うためにそれぞれ必要であると、対象教科にしている理由を説明しています。

外国語科はネイティブティーチャーを配置していること、算数科は少人数指導を導入していることから対象教科から外している自治体もあります。



先人の残した言葉

5

重松 鷹泰

よい授業というものの一つの要件は「予想外の考えがあらわれてくること」である。

重松鷹泰は、昭和21年（1946年）に、文部省の事務官になり、小学校社会科の創設及び学習指導要領社会科編（22年度版）の作成に直接関与しました。その後、名古屋大学教授、東京都立教育研究所所長などを歴任しました。教育哲学者です。

重松は著書『初等教育原理』（国土社、昭和46年）のなかで、よい授業の要件を3つあげています。先の言葉はその1つです。多くの教師は授業において、子どもたちが想定していない予想外の発言をしたり、行動をとったりすると戸惑います。重松はこうした場で、教師が右往左往する授業こそ、よい授業だといっているのです。

さらに「授業がある様式に従っているか、計画どおりに行っているかは、

二次的・三次的のことであり、むしろそういう尺度がよい授業の実現をはばむことさえ少なくない」とも述べています。きわめて印象的な言葉です。

あと2つの要件として、「子どもたちの間に強い助けあいの姿勢があらわれてくること」と「心の通うこと、そしてしみじみとした空気の生まれること」をあげています。

近年、教師の指示のもとに、教師の敷いたルールの上を子どもたちが心の動揺もなく、ただ淡々と突き進んでいく授業、またドラマ性や意外性、戸惑いや停滞感のない授業を散見します。

子どもの多様性が一層進み、個に応じた指導が重視される今日、重松の主張する「よい授業観」を改めて学びなおす必要がありそうです。

INFORMATION

ばんけいのテスト教材

選べるラインナップ

基礎・基本のAテスト

基礎・基本から活用までのNテスト



子どもたちも先生も「できた」を実感！
まるごとサポート

編集後記

春は子どもたちにとって、期待や夢、不安など、いろいろな気持ちを抱える特別な季節です。先生にとってもお忙しい時期ですが、子どもたちと一緒に夢と期待をもって春を迎えていただければと思います。

(H記)



ばんけい
きみの手に、みらいの夢を。

企画・編集：ばんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2024年3月1日